2019年3月20日　月刊第248号

非核・いしかわ

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の調印は70か国、批准は22か国（2月26日現在）

1面　沖縄・辺野古新基地　県民投票を終えて　五十嵐正博
3面　3・1ビキニデー
政府の隠ぺい体質　今も昔も　片岡紀子
原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める県民集会
5面　ICAN核廃絶・世界の動き
南アフリカ、核武装国から核軍縮の中心的存在へ
6面　石川9条おんがく隊が始動　中村昭一
〝怒りの昼デモ〟と〝どいね☆原発〟
6面　歌「平和の子ら」CDを制作　川崎正美
7面　読み直す必要性　飯田慈子
＜独標＞湯船　平澤眞理子
8面　シリーズ 石川の地域点描　中西　優
絵手紙コーナー　誉田裕子

沖縄・辺野古新基地　県民投票を終えて
「本土」への大いなる異議申し立て

代表世話人　五十嵐正博

「沖縄を返せ」が初めて歌われたのは一九五六年、この年、瀬長亀次郎さんは出獄し、やがて沖縄市長に当選します。『宝島』には沖縄の節目節目に亀さんが登場します。

「辺野古」県民投票の会の若者たち

『宝島』で少年少女が勇ましく立ち上がる姿は、「沖縄を取り戻すため」に、元山仁士郎さんの呼びかけで『『辺野古』県民投票の会』に集った若者たち、島のいたるところでプラカードを掲げ、署名活動をした若者たち、一八歳以下の意見も聞こうと「シール投票」を行った若者たちなどの姿と重なります。

インターネットで、ホワイトハウスに辺野古新基地建設中止を求める活動を始めた、ハワイ在住の「県民四世」ロブ・カジワラさんも。ロブさんの発案は、沖縄の基地問題を世界に知らしめたという意味でも画期的でした。そういえば、一九六九年、沖縄のある高校では、「生徒一五〇人が佐藤訪米阻止、学園民主化を叫んで校庭にすわりこみ、ハンストにはいった」歴史があ

奪われた沖縄を取り戻すため、少年少女は立ち上がる

直木賞受賞作、真藤順丈『宝島』は一九五二年、サンフランシスコ条約が発効し、〝アメリカ世（ゆ）〟になった沖縄のキャンプ・カデナでの出来事から物語が始まります。当時、「晴れて占領下を外れた日本（ヤマトゥ）では主権回復を祝っていたけど、わざわざ条文の但し書きつきでのけものにされたこの島では、アメリカがずっと使えるように、〝基地の島〟の工事に明け暮れていた」のでした。

その後、一九七〇年の「コザ暴動」などを経て、一九七二年の「本土返還」に至るまで、「奪われた沖縄（ふるさと）を取り戻すため、少年少女は立ち上がる」物語です（同書、帯）。

真藤順丈『宝島』

花鳥風月

戦後まもない頃、近所の八百屋のおかみさんの「こーちゃん何食べてそんな丸い顔しとるが？」の問いかけが母の口癖だった。「白いお乳を飲んでいるのにオムツを替えるとき緑色の便で悲しかった」。それは食べるものの無い（手に入らない）時代。食べられなければどうなるか。―この現実に「新しい憲法」は述べる▼「そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法は、かかる原理に基くものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであつて、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは，平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」と語りかける▼一九四七年五月三日、新しい憲法は施行された。（こ）

ります（中野好夫・新崎盛暉『沖縄・七〇年前後』岩波新書）。

「琉球処分」から一四〇年、翁長雄志さんが語っていました。「私たちは確かに厳しい時代を生きているけれど、それでもなぜこれほど強い県民になったかというと、長い歴史の中で虐げられて、木の葉のように風に舞いながらも、自分のアイデンティティーを確かめながら生きてきたからだと思います。」（『戦う民意』）

沖縄の人たちは「なぜ明るいのか」

沖縄の人たちの「明るさ」にひかれ、那覇のフリースクールで三年間の高校生活を送った珠洲市出身の少女は、県民大会に参加し、オスプレイ墜落地の住民の話を聞き、高江、辺野古を訪ねたりもしました。そして、沖縄に対する本土の無関心と潜在的差別意識を身に染みて実感することになります。『なぜ明るいか』、それは明るくないとやっていけないくらい暗いものを知っているから」と思い至るのです。彼女の豊かで、しなやかで、しかも鋭い感性が導き出した言葉でした（「菜の花の沖縄日記」は二〇一五年～二〇一八年『北陸中日新聞』に連載）。

彼女が通ったフリースクール「珊瑚舎スコーレ」の一年後輩の少女、彼女が先の「シール投票」の発案者ですが、そのきっかけを次のように語っています。県民投票を二か月後にひかえたある日のこと、友人のお母さんに呼び止められました。「県民投票に五つの市の人は参加できない。アメリカの先住民は、何か大切なものを決めるとき、子や孫のことのことでなく、七代先のことまで考えて物事を決める。そういう考えが不参加を決めた人たちにあるのか」と。彼女はこの言葉がずっと胸から離れず、投票当日まであと一ヶ月と迫ったときに、「シール投票」を立ち上げます。

かつての少年少女の
闘う姿を追った『宝島』

一九六七年の「教公二法案阻止闘争」、六九年の「毒ガス漏れ事件」、七〇年末の「コザ暴動」、そして「本土復帰運動」などの中で、三〇代後半になったかつての少年少女。『宝島』は、彼ら、彼女らがそこでもがき、闘う姿を追います。その一人は、こう言い放ちます。「条件は二つあるーその一、コザか那覇に日本（ヤマトゥ）の首都を還すこと、その二、瀬長亀次郎や屋良主席あたりの島の政治家を、佐藤栄作を更迭したあとの内閣総理大臣に任命すること、このふたつが通らなかったら返還は白紙よ。」当時は、「沖縄の闘いは、『県民の総意』を日本政府に突きつけ、対米交渉によって『復帰』を実現するという形の復帰運動から、日本政府への一切の期待と幻想を断ち切った自立的闘争へと転化しつつあった」時代でした。（前掲岩波新書）

県民投票条例の署名運動が
翁長さんを後押し

二〇一八年七月二七日、翁長雄志前知事は辺野古新基地建設の承認撤回を表明。承認撤回を必ず行うと明言してから一年四か月、亡くなる二週間前のことでした。その間、承認に踏み切らない知事に対する不満、批判が「オール沖縄」を分裂に導きかねないとの懸念が示されたりもしました。

翁長さんは、記者会見の冒頭、辺野古米軍基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票条例の署名活動が七月二三日に終了したことに言及し、「署名活動に取り組まれた皆様のご努力に心から敬意を表するとともに、政府におきましてもこれほど多く県民が署名を行った重みについてしっかりと向き合ってもらいたいと思います。」と述べました。「県民投票条例の署名活動」が翁長さんの決断を後押ししたことを認め、**新基地問題は沖縄だけの問題でなく、日本全体の問題**であると訴えたのです。

沖縄県民は、直近の二度の知事選、今回の「県民投票」で、圧倒的な「辺野古新基地NO！」の民意を示しました。安倍首相は、県民投票前から、基地建設の継続強行を決めていました。確実にいえることがあります。安倍独裁政権にもやがて終わりがある、辺野古新基地建設は完成しない、しかし、安倍政権が続く限り、この国の憲法が蹂躙され、民主主義が破壊され、対米従属は「深化」し続ける、そして、埋め立てられた大浦湾は元に戻せない。いつもそうです、「そして誰も責任を負わない」。

問われているのは「本土の本気度だ」

私は、今回の県民投票を、本土の沖縄に対する無関心と潜在的差別意識への「大いなる異議申し立て」だったと理解します。ある記者が、元山さんに「次は何をしますか？」と問いました。その問いは、元山さんに対してではなく、質問した記者自身に、そして本土の私たちに向けられるべきものでした。問われるべきは「本土の本気度」であり、「奪われた沖縄を取り戻すために、本土が何をするかです。」私たちがなすべきことは、一日も早く安倍政権を退陣させて、この国に憲法と民主主義を取り戻すことです。沖縄を沖縄の人たちに返すためにも。

3・1ビキニデー

政府の隠ぺい体質　今も昔も

新日本婦人の会金沢支部　片岡紀子

核廃絶を願い、墓参行進が行われた

今年初めて参加した3・1ビキニデー集会。二回目の米朝首脳会談が開催される中での、この集会が大きな意義のあるものとなったと思います。

私が生まれる一〇年以上前に起こったビキニ水爆実験のことは、数年前まであまり知りませんでした。広島・長崎の原爆のことは知っていても、ビキニ実験のことを知らない人は多いと思います。これまでの参加者の報告で少しずつ学習しましたが、参加してみて核の恐ろしさを改めて感じました。

水爆実験によって降り注いだ「死の灰」が船員・島民を苦しめ、政府はそれを放置した。汚染調査もアメリカの要求によって年内で止めたなどの隠蔽体質は今も昔も同じなのだと怒りがあふれます。政府が隠してきたことで、ビキニ水爆実験を知らない人が多いのでしょうか。

二日目は、安倍政権への怒りと核廃絶を願いながら、静かな焼津の町を墓参行進しました。六五年前の焼津はどうなっていたのか。今の静かな町からは想像できませんが、六五年間母親大会も同じ年数を重ね、焼津で始まった国民の怒りは継続されているのだと思いました。

分科会は、「禁止条約に参加する日本を―ヒバクシャ国際署名をひろげよう」に参加しました。

二〇二〇年NPT再検討会議まで一年余りとなった今、「ヒバクシャ国際署名」が足踏み状態です。会員にはおおよそ署名がまわり、それ以上にどう広げていくかが問われています。その打開策を見つけたいと思い、この分科会へ。

滋賀では、元知事二人が賛同署名していると知らせ自治会回覧板をまわした。全議員へ署名を送った神奈川など各県の実情を聞きました。私は、地元生協での共同行動ができない、他県の実情を教えてと発言したところ、青森では生協店舗で署名に立ち、店内放送までしてくれる。神奈川では平和行進で店舗に寄り行進を応援してくれ、七夕アクションでは被爆者の方と一緒に街頭署名をしているなどの発言がありました。

各地域での行動に学び、地元で私たちの出来ることを考え実行して、署名を前進させていきたいと思います。

非核の政府を求める石川の会第31回総会

日時　6月2日（日）10時～12時

会場　金沢市文化ホール3階第5会議室

＊記念講演「日米安全保障体制と地位協定」（仮題）は五十嵐正博代表世話人が行います。

＊創立30周年を迎えた今年の総会に提案する「永年会員制度」には15人の申し出がありました。引き続き80歳以上の会員の皆様からの申告をお待ちします。

原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める県民集会

早川篤雄さん講演を聞いて

三月九日、原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める石川県民集会が金沢市であり、メモリアル講演を聞きました。

早川篤雄さん（福島県楢葉町・宝鏡寺住職）は『福島原発避難者損害賠償請求訴訟』原告団長、『原発問題住民運動全国連絡センター』代表委員をされています。

いただいたレジュメと早川さんのお話から感想を記します。

福島原発事故は起こるべくして起きた事故である

東京電力福島原発事故は地震や津波がなくても、いつ起きてもおかしくなかった。私たちの二度の「津波対策の申し入れ（〇五年・〇七年）」を受け入れていれば、起きなかった事故である。福島原発事故後も、原発推進、核燃料サイクル推進政策はそのままである。原発事故は次も日本で起きる危険性がある。

原発導入のいきさつ

・五三年一二月　アイゼンハワー大統領が、第八回国連総会で「原子力の平

和利用」を提言。

・五四年二月　日本政府は、『原子力推進の障害』と『民主的科学者排除リスト』『日本における原子核及び原子力研究の施設及び研究者について』の極秘報告書を米国に送り、日米共同で画策した。（一一年九月四日赤旗報道）

・五四年三月　日本初原子力予算成立。自民党の一部幹部と内々の相談をし、衆院予算委員会に突如、二億三五〇〇万円の予算を提案、成立させた。中曽根康弘総理は「事前に分かると無知の妨害が起こる可能性があった」と語る（一一年四月二六日朝日報道）

・五五年二月　正力松太郎「原子力の平和利用」を掲げ当選。（五四年から読売社主）

・五五年一一月　東電：社長室に原子力課を設置。具体的な候補地の選定に入る」（東電三〇年史）

・五六年一月　総理府に原子力局原子力委員会設置。初代委員長正力松太郎。

・五六年五月・科学技術庁発足。初代長官正力松太郎。

・五六年九月　原子力委員会『原子力の研究・開発及び利用に関する長期計画』策定。〇五年『原子力政策大綱』に名称変更。

・〇六年八月　自然エネルギー庁『原子力立国計画』を発表。

原子炉事故の理論的可能性と公衆損害に関する試算

・五七年三月　米原子力委員会は『公衆災害を伴う原子力発電所事故の研究』を発表。原子力災害補償制度確立の契機になる。

・同年九月　事業者のリスクを軽減し原子力発電を推進するため、賠償責任を一定額で打ち切るプライス・アンダーソン法を成立させた。

・六〇年四月　これに相当する法律『大型原子炉の事故の理論的可能性及び公衆損害に関する試算』を日本原子力産業会議が政府に報告。

国家予算の二倍以上の試算を隠す

報告書は全文二四四頁あるが冒頭の一八頁だけを冊子にして衆院科学技術振興対策特別委員会に提出した。

損害額は国家予算の二倍以上になる試算結果から、岸信介内閣は秘匿した。（七九年四月九日赤旗報道）

・六一年六月　『原子力損害賠償法』『原子力損害賠償契約法』を公布。

原子力損害賠償措置額は一事業所当たり一二〇〇億円。ところが東電は東海第二再稼働安全対策費三〇〇〇億円の内一九〇〇億円を支援するという。「被災者支援対策を打ち切りながら馬鹿げたことです」と早川さん。

原発立地開発ビジョン

・六八年三月　国土計画協会から県に提出。第一章「原子力施設の立地条件①周辺地域に大都市がなく、人口密度が低い地域であること。②から⑤まであるが、これは事故時の災害補償と低建設コストなどを前提としている。

地場産業主体の被災地

当時、中小企業庁は「強制避難指示地区（一二市町村）には約八千の企業・個人事業者が存在し、約六万人が働いている。地区の特徴は地場産業で働いている人が多く、他の地域へ移転すると、一から事業や生活の再構築を迫られ、非常に困難な状況」にあると報告。

避難解除され戻っても、ほとんどの人は事業や生活の再構築はできない。

避難指示解除三つの条件

①積算線量率が年間二〇mSv以下。②インフラなど生活関連サービスが概ね復旧。③子どもの生活環境を中心とする除染が十分にできていること。＊除染は生活圏（家屋敷）二〇m以内で完了。避難解除は元通りの生活環境になったからではない。

住民意向調査

・一八年三月　復興庁調査で七町村の住民は、「戻れない」「戻らない」「判断がつかない」と答えた人が五割～八割。

＊若い世代の帰還率が何故低いか。避難先での生活基盤ができたこと。放射能汚染の問題がある。

福島復興再生特別措置法

法律の目的と理念には、原子力行政を推進してきた国の責任から、福島の復興・再生。安心な暮らし、子どもを生み、育てられる環境、住民一人一人が豊かな人生を送れることが書かれている。

理念通りの復興になっているか

自然が豊かで第一次産業が経済基盤であったふるさと。「避難解除」で戻ったふるさとは、復興で壊されたふるさとだった。『ふるさとの喪失』である。人間の復興はされていない。

志賀原発廃炉に

早川さんの講演を聞き、志賀原発廃炉の思いを強くしました。

（非核・いしかわ編集部）

【ＩＣＡＮ核廃絶・世界の動き】

南アフリカ、核武装国から核軍縮の中心的存在へ

二月二五日、ニューヨーク国連本部において、南アフリカ共和国が核兵器禁止条約を批准しました。一時は独自の核兵器開発を推し進め、その後核兵器反対に転じた唯一の国が、核なき世界に向けた重要な一歩を踏み出したのです。

ＩＣＡＮは、核軍縮における南アフリカの継続的なリーダーシップを支持し、その行動が他のアフリカ諸国の条約加入に繋がることを期待しています。アフリカ大陸全体としては、歴史的に核兵器反対の強い立場をとってきました。今や各国それぞれが、核兵器禁止条約の一日も早い発効に大きな影響を与える力を持っていると言えます。

南アフリカの歴史概要

核兵器にまつわる独自の歴史があるだけに、南アフリカの核兵器禁止条約批准は大きな意義があります。

一九四八年　豊富なウラン資源に恵まれたことで、原子力エネルギーへの関心が高まってくる。

一九五七年　米国から初めて原子炉を購入する。

一九七三年　米国の諜報報告書によると、この年に正式に核兵器計画を始めたとされる。

一九八二年頃　核実験に対する国際的な圧力の中、最初の核爆発装置を開発、製造する。

一九八八年　この時点で五五kgの高濃縮ウランを含む核爆弾六発を所持していたが、政府が正式に核計画を取りやめることを発表。

一九九一年　非核保有国として核不拡散条約（ＮＰＴ）に加入。

一九九四年　ＩＡＥＡは南アフリカの核兵器すべてが廃棄されたことを確認。

一九九六年　南アフリカの研究施設にちなんで名付けられたペリンダバ条約が調印される。アフリカの非核化を定めたこの非核地帯条約に賛同したことで、南アフリカは他のアフリカ諸国への仲間入りを果たす。

一九九九年　包括的核実験禁止条約（ＣＴＢＴ）を批准。

マンデラ元大統領の演説

一九九八年の国連総会で行われたネルソン・マンデラ元大統領の演説を聞くと、南アフリカが核武装国の核抑止論にどのように立ち向かってきたかがよく分かります。

「我々は問わなければなりません。非道で恐ろしい大量破壊兵器を拒むことなく、その正当性を主張し続ける人々には無知に聞こえるのかもしれませんが、『なぜそんなものが必要なのか』と。実際のところ、冷戦時代の惰性と自国の優位性を固持するためだけの核兵器への執着が結果的に何をもたらすのか、満足のいく形で合理的に説明することなど誰もできないのです」

南アフリカは核軍縮の原則を支持し続け、二〇一二年以降は、核兵器廃絶への人道的イニシアチブをとる中核的存在の一員となりました。それが核兵器を禁止する国連条約を求める運動へと発展し、二〇一七年七月七日の核兵器禁止条約採択に繋がりました。条約への署名が始まったその日に署名した南アフリカは、二二番目の締約国となりました。

「核計画を自主的に放棄した国として、私たちは大量破壊兵器に安全な使用法などないという確信を持っています。（中略）私たちは、核兵器を世界、そして人類からなくすため、国連のすべての加盟国に対して、核兵器禁止条約に署名し批准することを声高に訴えていきます」―ジェイコフ・ズマ前南アフリカ大統領（二〇一七年九月核兵器禁止条約署名式より）

ＩＣＡＮは今回の条約批准を歓迎し、南アフリカが今後も核軍縮における指導的な役割を果たせるよう働きかけていきます。

◎本稿はＩＣＡＮウェブサイト(February 25,2019)より転載しました。

核兵器禁止条約の批准国　22か国

ガイアナ、タイ、バチカン、メキシコ、キューバ、パレスチナ、ベネズエラ、パラオ、オーストリア、ベトナム、コスタリカ、ニカラグア、ウルグアイ、ニュージーランド、クック諸島、サモア、ヴァヌアツ、ガンビア、サンマリノ、セントルシア、エルサルバドル、南アフリカ

＊核兵器禁止条約の調印国は70か国

出展：ＩＣＡＮウェブサイト

◆日本の原子力発電所の現状

二〇一九年二月一三日現在（再稼働九基、設置変更許可六基、新規制基準審査中一二基、未申請九基、廃炉二四基）

非核・平和のひろば

石川9条おんがく隊が始動

中村昭一

昨年暮れに結成された『石川9条おんがく隊』は二月一一日、『平和と民主主義を考える集い』(近江町プラザ)にて初披露目。紙芝居部の〝のまりん〟による「おじいさんにできること」、バンド部による「花は咲けども」、合唱部による「約束の歌」。そして最後に、おんがく隊全員による「平和の道」を高らかに歌い上げ、上々の滑り出しとなりました。

2.11『平和と民主主義を考える集い』にて

続く三月九日、『原発をなくす県民集会』(教育会館)において、メインの講演前に合唱部が「平和の道」「約束の歌」「福島の海よ」を演奏。あいにくメンバーの数は充分ではありませんでしたが、その後の香林坊・片町デモ行進と合わせ、たたかう表現者として元気に活動を開始しました。演奏は「とても良かった」「元気をもらった」と大好評でした。

(石川9条おんがく隊代表)

〝怒りの昼デモ〟と〝どいね☆原発〟

統計調査の不正、森友・加計疑惑、公文書改ざん、裁量労働制のデータねつ造、防衛相の日報隠しなど、ウソだらけの政治に怒る〝怒りの昼デモ〟が、隔週水曜日に熱心に取り組まれています。また〝どいね☆原発〟も毎週金曜日に取り組まれています。社会保障予算を削り、消費税を増税し、国民の命と暮らしを破壊する政治はもうゴメンです。社会進歩と政治革新を願う皆さん。ともに力を合わせましょう！「憲法を変えるのではなく、政治を変えよう！」「辺野古の米軍基地の建設は中止させよう！」(編集部)

歌「平和の子ら」CDを制作

川崎正美

金沢市卯辰山・玉兎ケ丘に建立されている原爆慰霊碑を歌った「平和の子ら」のCDを制作中で、フォークグループ・でえげっさあ、小学校児童、「平和の子ら」を歌う合唱団の収録が進んでおり、六月に完成予定です。作詞・作曲したでえげっさあ代表の川崎正美さんの寄稿文を紹介します。

・・・・・・・・・・・・・

「私たちは今日ここに声を合わせて高らかに全世界に訴えます。人類は私たちの犠牲と苦難をまたふたたび繰り返してはなりません」と宣言し、一九五六年日本被団協が結成されました。それ以来、病気や差別と闘いながらも、被爆者のみなさんは、この地上から核兵器を無くす運動の先頭を走ってこられました。

石川県に住む被爆者の平均年齢は八五歳。多くの方がやむなく一線を退き、運動を担っているのは、一部の方だけだそうです。彼らとともに、「核廃絶」と書かれたゴールテープを切り、喜びを分かち合うことができたら…と願うのですが、残念ながらゴールはまだ先のようです。

彼らからの平和のバトンは、いよいよ私たち、そして子どもたちに託されます。まず私たちにできるのは、「忘れない」ことではないでしょうか。広島と長崎での大惨劇を脳裏に刻んでおくことです。さらに「核のない世界」を求めて、被爆者のみなさんが傷ついた体で歩き続けた、そして今もなお、歩き続けているということです。核兵器禁止運動の原点はこの事実にあるのですから。

忘れてはいけないよと、卯辰山の公園に「平和の子ら像」は立ち続けています。

(CD制作委員会事務局長)

石川発、反核・平和の願い

CD「平和の子ら」制作・普及にご協力を！

制作協力金(1口2000円)はCD制作費と石川県内の小学校(208校)に寄贈する費用に充てられます。また、1口につき1枚のCDを協力者に贈呈します。

CD「平和の子ら」制作委員会

代表　金森俊朗・西本多美子

連絡先／09023748784 川崎正美

非核石川の会リレーエッセー

読み直す必要性

飯田慈子

「金沢子どもの本研究会」は一九七三年創立、毎月一回例会を持ち、現在四四七回を数えている。先日開かれた二月例会は、「ふくしまおよびひろしま・ながさきを考える本を読みあいましょう」というテーマで行われた。私は、あまり熱心な会員でないのだが、今月は、是が非でもという思いで、参加した。

参加するに当たり、いったい我が家にどのくらい、これらの本があるのか、調べてみることにした。

・東日本大震災　八冊（主に雑誌の特集）

・広島＊長崎　広島・長崎原子爆弾の記録　被爆者からの伝言　原爆の図

驚いたことに、広島、長崎の三冊は、初めて見るような新鮮さがあった。私の中で風化が進んでいるのであろう。丸木夫妻の画集は、ausyuvitu（アウシュビッツ）、水俣、沖縄などが、加えられていて驚いた。やはりこれは、時々、開けてみなければならない、と思い知った次第である。

詩人会議かなざわ「独標」より

湯船

平澤眞理子

銭湯が好きでした
母と娘と私三人で
大きな湯船に乗って揺られて
旅に出て
笑って笑ってあくびして

振り返ると
幸せは石鹸の泡と三本のコーヒー牛乳

娘は嫁ぎ
母は逝き
一人乗りの小船に乗り換えて
海原に漕ぎ出す

水平線に娘が見ている希望が浮かぶ
ぽっかり雲にゆったり座る母が浮かぶ

今日からは夫と二人で漕いで行くと
娘が言う
誰もが乗った一人乗りの小舟だよと
母が言う

ぽっかり雲の空席に
ブルージンジャーの花が咲く

編集室から

◎銃剣とブルドーザーで問答無用に接収されたという普天間基地。沖縄県民の願いは〝即時返還〟であり、県民投票でもはっきりとした意思表示がなされているのに、わが国の政権は国民の声を聴く耳を持たないのだろうか。米軍基地の移転先にと、大浦湾に土砂を投入してV字型滑走路を建設するという「辺野古新基地」。計画の当初からわかっていた問題が改めて浮上している。衆院予算委員会での、赤嶺政賢衆院議員による辺野古新基地建設埋め立て問題についてのコメントを新聞で読んで思った。

以前、加賀市の柴山潟で造成工事をしていたという運転手が、昼食でブルドーザーから離れて振り返ったら「沈んでいった」と聞いて笑ったが、沈むのはブルドーザーだけでなく、V字型滑走路といえども同じだろう。

河川・湖沼の多いわが国では、昔から護岸のための〝筏（いかだ）地業〟という工法はあったが、潟端の人たちも埋め立てなどという不遜なことはしなかったと思う。最近どこかで聴いた話のようだが、いつまでも沈下は続き、そのうち使い物にならない「無用の長物」になりかねない。（こ）

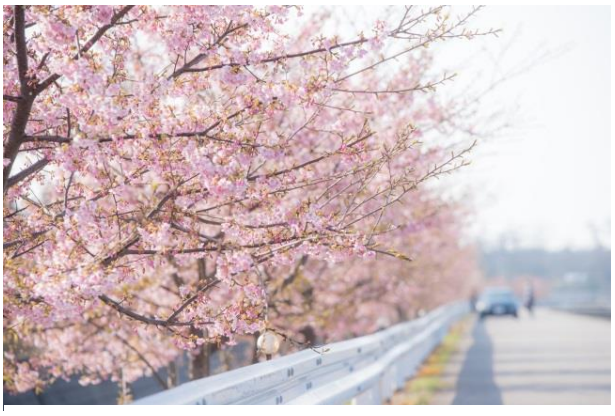
◎現下は、二回目の米朝首脳会談の評価を誤ってはならない。筆者は知人より得た貴重かつ膨大な関係資料を通読し、いま私なりにこれを書いている。

日清・日露戦争は朝鮮半島（以下、半島）の支配に関わり、日本は百年を超えて隣国の民族国家の建設を阻害してきた。『三・一独立運動』から百年。当時の日本のメディアは朝鮮人への恐怖と偏見を煽る報道に終始し、挙句、関東大震災での朝鮮人虐殺も発生した。「植民地化は適法」「併合は適法」とし、二一世紀の今でも朝鮮批判キャンペーンを繰り返している。その端的な表れが韓国最高裁の徴用工判決。個人の請求権は消滅していない事実を報道するメディアはほぼ皆無。いま分断された民族が平和的な関係を追求する中で、これまで日本がやってきたことが、根本から問われよう。

軍事同盟の根源は、敵意と不信である。対話と行動によって敵意を押さえ、信頼をつくりだすことこそ真の平和戦略だという確信が、世界の民衆に広がり国際政治を動かしている。文在寅韓国大統領の一回目の米朝首脳会談後の言葉に尽きよう。「平和というものは銃口から生まれず信頼から生まれるものだ。信頼は交流して理解し合うところから生まれるものだ」（中）

シリーズ石川の地域点描 31

フォットグラファー　中西 優



見ごろを迎えた河津桜=白山市美川地区

花を咲かせ始めた雪割草=小松市・憩いの森

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班　誉田裕子

四月からは入学・就職などと新しくスタートを切る方もいらっしゃるのではないでしょうか？そんな人たちの門出を祝うかのように各地で春の訪れを告げる花が咲き始めました。

今冬は例年に比べて雪が少なく、春への移り変わりが実感しにくい年となりましたが、それでも色鮮やかな花が周りで見られるようになるのは嬉しいものです。

【トピックス】

核兵器禁止条約の批准国は、二月二六日に南アフリカが国連事務総長に批准書を寄託し、一二か国になりました。（関連記事五面）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	会場
3	21	木/休	13:00	ピースウォーク金沢2019	金沢市・いしかわ四高記念公園
	24	日	10:00	石川県保険医協会総会記念・市民公開講演会 「沖縄をめぐる現状と歴史を知る」 仲里尚実さん・瀬長和男さん	金沢市堀川町・ホテル金沢2 階
4	7	日		一斉地方選挙／県会議員選挙・投票日	県内各地
	9	火	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・エムザ前
	21	日		一斉地方選挙／市議会議員及び町会議員選挙・投票日	県内10市町で改選
5	3	金/休	13:30	平和憲法施行72周年記念石川県民集会 記念講演「沖縄からみた安倍政権」普久原均さん	金沢市下本多町・金沢市歌劇座大ホール
	9	木	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・エムザ前
	11	土	15:00	医療・福祉問題研究会例会／田中純一さん	金沢市高岡町・松ヶ枝福祉会館1階
	12	日	14:30	NPO法人未来塾・大人の学び講演会／古賀茂明さん	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール
	25	土	14:20	きょうされん石川支部・映画会「夜明け前－呉秀三と無名の精神障害者の100年」	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール
	26	日	13:30	石川県社会保障推進協議会・総会記念講演／二宮厚美さん	金沢市青草町・近江町交流プラザ4階集会室
6	2	日	10:00	非核の政府を求める石川の会第31回総会・記念講演／五十嵐正博さん	金沢市高岡町・金沢市文化ホール3階
	9	日	10:00	2019年石川県母親大会	金沢市三社町・石川県女性センター・ホール
	9	日	10:00	2019年原水爆禁止国民平和大行進（能登コース）スタート	9日：輪島市、能登町 ～ 14日：内灘町
	15	土	11:30	2019年原水爆禁止国民平和大行進（富山ー広島コース）富山から引継ぐ	15日：津幡町 ～ 24日：加賀市／福井に引き継ぐ

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日 18:30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デー 12:00

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中。年間購読料 1,500円。郵便振替口座 №00760－0－15689